

ISK経営塾66期 講義キーワード

第2回

2005年4月19日(火)

◆前回講義キーワード

- 過去の成功体験に引きづられて、トレンドになってはいけない。前後際断でいま・ここにパワーを出す。
- 変化のスピードの早い時代であり、常識が常に変化する。変化に対応するのではなく、自分で常識を壊し、変化を起こしていこう。
- ビルド&スクラップでは、コストもかかるし、腹が決まらない。スクラップしてエネルギーを集中する。
- 過去を捨てるのではなく、忘れることで開き直る。
- できないことを気にするのではなく、自分の得意技を伸ばす。優位特性を伸ばせば、自然と弱みも消えていく。
- 深刻ぶっても意味はない。絶対積極でルンルン気分で真剣にいま・ここをやり抜く。
- 仕事の報酬は仕事。役に立った分が利益である。

- 習慣は第二の天性である。原理・原則にあった良いものを習慣にし、パワーを出していく。
- やれないことを嘆くのではなく、自分のできることを100%やりぬけば良い。やれない理由を探せばかりいることが少なくない。
- 目の前の問題の処理・整理をすることでは会社は良くなる。あるべき姿へ向かう問題を構築していく。
- あるべき姿・志が大きいからこそ今やっていることも辛く感じない、楽しくできる。
- 自分を小さくしないで、「できる・できる」と大きくあるべき姿を具体的にイメージする。
- 小さなテーマも大きなテーマも努力の量は同じ。どうせやるなら大きな方を選べば、動きもダイナミックになる。
- 契約の納期は守って当たり前。心の納期を上回ろう。

- 手段・方法から入るのではなく、あるべき姿があるからこそ、やるべき事が見えてくる。
- あるべき姿への腹が決まっていけないのに、手段・方法を考えても意思の入っていない作業にしかない。
- 現実のスイッチを切り、未来とのコミュニケーションを多くすることで先見性は磨かれていく。
- 10年後のあるべき姿を常に描く。今からの2年後ではなく、10年後から見た2年後を描くようにする。
- ビジネスはカンニングOK。良いものに気がいたら、ドンドン自分に置き換えて吸収していく。
- ビジネスは自己評価。他人と比べる相対ではなく、絶対で考える。
- 主人公はみんな、各個人である。受身ではなく、自主的に、大きな夢を描いていま・ここをやりぬこう。